

# 完了報告書

記入年月日 2026年2月16日  
採択団体名 一般社団法人 コミスクえひめ

## ■事業概要

基本情報	
事業名	共に学び共に進めるコミュニティ防災推進事業
事業内容	事業内容①:実動訓練プログラムづくり 事業内容②:多世代防災学習会 事業内容③:相互支援ネットワークづくり
事業背景	<p>東温市の地下には日本でも第一級の活断層である中央構造線が東西に走っており、南海トラフ巨大地震が発生すれば、震度6強の強い揺れに襲われる可能性が高い。</p> <p>しかしながら、愛媛県内で唯一海に面していない東温市は津波の心配もなく、近年頻発している豪雨でも大きな被害が発生していないことから、地域住民の中に「災害の心配が少ない地域」との認識が根強く、防災に対する意識は低い。地域の防災訓練では、子育て世代の家庭の参加率が低く、住民が主体となって進めるべき避難所運営訓練も、実施後アンケートには行政への要望が書き連ねられるばかりである。</p> <p>また、学校の避難訓練、防災学習については、これまでに県内外の地震学・防災学の専門家から指導を受ける機会があったものの、うまく教育活動に反映できておらず、家庭や地域との連携も十分ではない。</p> <p>愛媛県の県庁所在地・松山市のベッドタウンでもある東温市は、日中、勤労世代の多くが市外で働いており、子どもたちには「主体的に判断・行動できる力」が必要である。</p> <p>さらに、高齢化が進む地域の中で、年齢を問わず、一人一人の力を引き出し合い、災害時にも共に生き抜こうと思うことができる「顔の見える関係作り」が急務である。</p>
コミュニティ 設立の経緯	<p>これまでの地域防災活動では、市の危機管理課や消防署、消防団、地域の防災士や地区防災担当者、防災ボランティア団体といった、「防災を専門とする人たち」「防災に関心が高い人たち」が集い、備えを充実させてきたが、今回は新たな人材の参画をうながすため、地域教育や地域づくりに関心の高い層に訴求する呼びかけを行い、活動する中で自然と「顔の見える関係」が作られ、防災への意識が高まるよう工夫した。</p> <p>また、東温市独自の社会資源である「坊っちゃん劇場」の監修による「デバイングの手法を用いた実動訓練プログラム」は、参加者の関係性を「教える一教えられる」ではなく「共に学ぶ」対等な関係性に置くものである。それにより参加者の主体性が引き出され、課題意識が刺激されたことにより、実施後すぐに「次回」「複数回」の実施を期待する声も聞かれた。</p>
本事業に関する過去の 取り組み内容	<p>一般社団法人コミスクえひめは、平成30年7月豪雨での被災経験から、平時のつながりの大切さを、コミュニティ・スクールの推進という方法で愛媛県下全域に伝えてきた。</p> <p>東温市は、愛媛県の中予エリアでいち早くコミュニティ・スクールを全市導入したことから、コミスクえひめの支部を設けて、アドバイザーの派遣、市教育委員会のキャリア教育事業受託、学校・公民館での体験講座の実施等、さまざまなアプローチで「社会総がかりの教育」の具現化に取り組んでいる。令和7年度の夏には、学校運営協議会委員や地域学校協働活動関係者を集めて、地域と子どもたちの安心・安全について熟議を行う研修会を市教育委員会と共催で企画・運営した。これまでに構築してきた学校や地元社会教育団体等とのつながりをいかして、今回の事業を展開する。</p>
事業体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東温市教育委員会生涯学習課:事業全般に関する企画・運営 2名</li> <li>・未来を創る協働本部チームいのとん:事業全般に関する企画・運営 5名</li> <li>・愛媛県立東温高等学校:事業②③への高校生参画 教諭2名</li> </ul> <p>(東温市 PTA 連合会や婦人会は団体としてではなく「会員」個人の参加となったため、記載しない)</p>

<p>全体スケジュール</p>	<p>9月中旬 推進会議の開催  プロジェクトチーム別会議の開催 具体的内容や日程を決定  9月下旬～チーム別での事業実施(1月末まで)  ①防災実動訓練プログラムづくり  ・専門家による指導 ・先進事例の見学研修 ・実動訓練プログラム内容の協議・制作  ②多世代防災学習会  ・先進事例の見学研修 ・専門家による講座実施 ・交流会・体験会の企画、準備、実施  ③相互支援ネットワークづくり  ・先進事例の見学研修 ・NPO等による講習 ・ヒアリング及び意見交換会の実施  1月下旬  ①防災実動訓練  ・実動訓練の準備(会場、参加者等)、実施  ②多世代防災学習会  ・交流会・体験会の準備、実施  2月上旬 チーム別に振り返りを実施し、成果報告書を作成  3月中旬 推進会議の開催</p>
<p>事業目標・事業成果</p>	
<p>事業目標全般 (教育提供者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災活動への参加度が低い世代(中学生・高校生)が関心を高める機会をつくる  目標➡3回程度の学習会を実施する</li> <li>・多世代で学ぶ防災学習プログラムを開発する  目標➡実動訓練プログラムを含むプログラムを1本以上制作する</li> <li>・災害時の相互支援ネットワークの可能性をさぐる  目標➡被災地の知見をいかした共助のネットワークを構築する</li> </ul>
<p>事業成果全般 (教育提供者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災活動への参加度が低い世代(中学生・高校生)が関心を高める機会をつくる  西谷小学校児童への体験学習講座を実施(2回)  川内中学校生徒が参加する多世代防災学習会を実施(2回)  東温高校生徒への体験学習講座を実施(2回)</li> <li>・多世代で学ぶ防災学習プログラムを開発する  「まち歩きから考える地域防災プログラム」  「デバイング防災学習プログラム」  「心のスキルアッププラス防災教室プログラム」の3本開発</li> <li>・災害時の相互支援ネットワークの可能性をさぐる  南予方面の団体と東温市内の団体の連携協定を締結</li> </ul>
<p>事業目標全般 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災活動への参加度が低い世代(中学生・高校生)が関心を高める機会をつくる  目標➡のべ参加者数50人が防災学習会に参加する</li> <li>・多世代防災学習プログラムの体験者が継続して地域防災活動に取り組む  目標➡中学生・高校生の活動が継続・発展する</li> <li>・災害時の相互支援ネットワークの可能性をさぐる  目標➡野菜備蓄栽培の実験圃場を東温市に1カ所以上開設する</li> </ul>
<p>事業成果全般 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災活動への参加度が低い世代(中学生・高校生)が関心を高める機会をつくる  中学生、高校生のべ80人が防災学習会に参加</li> <li>・多世代防災学習プログラムの体験者が継続して地域防災活動に取り組む  開発した防災学習プログラムを東温市の社会教育団体「未来を創る協働本部チームいのとん」が継続して実施  東温高校で放送部を中心にドローン防災活動を、園芸部を中心に野菜備蓄栽培を継続して実施</li> <li>・災害時の相互支援ネットワークの可能性をさぐる  野菜備蓄栽培の実験圃場を東温市内の小中学校・高校・民間圃場の3カ所開設</li> </ul>

<p>展開できる 知見やノウハウ</p>	<p>まち探検・まちづくりの観点から呼びかけることで、防災への関心があまり高くない人たちの参加を得ることができた。          デバイジング防災学習プログラムは、参加者のフラットな関係の中で展開できるため、参加者の主体性や連帯感が高まりやすく、参加者の課題意識や学習意欲にもつながるものだった。</p>
<p>コミュニティ防災教育の重要な観点</p>	<p>人間関係の希薄化は想像以上に進んでおり、早急に世代を超えた「顔の見える関係」を再構築する必要がある。そのためには、共に生きる「このまち」を大切に思う気持ちを育むこと、そして、そこで作られた人間関係がその後の日常の中で繰り返し確かめられ、やがてたしかな「絆」となるよう働きかけ続ける必要がある。</p>
<p>残課題等</p>	<p>今回、小学校での出前講座実施や中学生・高校生の参加は得られたが、学校の主体的な参画は得ることができず、「学校の防災活動」と「地域の防災活動」を有機的につなげることができなかった。地域の大切な子どもたちを学校と協働して守ることができるように、学校もコミュニティ防災の一員となるよう働きかけていきたい。</p>

■事業内容

事業内容①実動訓練プログラムづくり	
事業内容①目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震や防災分野の専門家の知見をいかしつつ、地域住民が主体となって実動訓練プログラムを作成する。</li> <li>・作成したプログラムを1回以上実施し、学習効果を検証する。</li> <li>・プログラムの実施状況を撮影し、横展開のための動画を1本以上作成する。</li> </ul>
事業内容①目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実動訓練プログラムを20人以上が体験する</li> <li>・体験後、防災に関する意識が高まる</li> <li>・体験後、災害への備えに着手する</li> </ul>
事業内容①制作 (実施期間:10月上旬から1月中旬)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>実動訓練プログラムの開発に向け、県内の豪雨災害被災地のみなさんに「『備えておけばよかった』と感じたこと」について、ヒアリングを行った。</p> <p>それをもとに、坊っちゃん劇場の脚本・演出家、地域の防災士、役者等と、場面設定や流れについて協議を重ね、最終的に「デバイジング」という演劇手法を用いることとした。</p> <p>当初、「学校」を想定していたが、幅広い年代が利用でき、地域コミュニティの防災拠点となる願いを込めて、「公民館」での実施とした。制作にあたっては、公民館職員に実際の災害対応マニュアルを尋ねたり、館内設備や屋外の防災倉庫の確認を行ったりした。</p> <p>登場人物は、「演者」ではなく、「現実の人物」とすることから、今回は、スポーツ少年団指導者や消防団員、障がい者と介助者等に、協力を要請した。</p> <p>なお、トラウマ対策として、心理専門家の意見を聴く機会は度々設けたが、防災専門家から指導を受けるのは、「事業の実施後」とした。それは、「プログラム作りの試行錯誤と、『正解がない』災害時の対応を重ね合わせて体験したい」という脚本・演出家のこだわりによる。</p> <p>■成果</p> <p>プログラムの開発に向けた協議は、制作メンバー一人一人が「災害を生き抜くためにはどのような力が必要か」を深く見詰め、「災害発生時、どのような時間経過をたどり、どのような場面に遭遇するか」「どのような困難や葛藤を感じるか」を広く想像し、語り合う貴重な時間となった。</p> <p>公民館を拠点としたことで、制作メンバーが地域コミュニティにおける公民館の役割を再認識することができ、公民館職員や社会教育団体とのつながりが深まった。今後、社会教育活動として防災教育に取り組む可能性を開くことができた。</p>



<p>事業内容①実施 (実施日:1/25)</p>	<p>■具体的な取り組み内容          アイスブレイクの後、ファシリテーター(坊っちゃん劇場中村氏)から参加者に対して実動訓練の趣旨や注意点等の説明を行った。          「公民館の事業に参加しているところで大きな地震が発生」という状況を認識してもらうため、予め用意していた「地震博士からのメッセージ」が上映され、その映像によって、大きな揺れと電源消失を伝えた。          その後すぐに公民館職員が駆けつけ、災害対応マニュアル通りに中学生の安全確認をするが、その後起きる「できごと」は、くじ引きで決定する。          今回用意した「できごと／人物」は、①図書館前で座り込んで動けなくなった女性と同行者 ②公民館前でバスを降ろされた聴覚障がい者の男性 ③小さな子どもたちを引率しているスポーツ少年団の指導者 ④駆け付けた地域の消防団員の男性 で、ファシリテーターの指示があるまで、控室で待機しておく。          3分から5分間隔で「できごと」がもたらされ、中学生と大人が相談しながら対応していく。          約30分が経過したところでデバッキングを終え、参加者、観察・記録者、企画・運営メンバーでふりかえりを行った。</p> <p>■成果          はじめは大人から指示されるのを待っていた中学生が、防災倉庫へ走ったりブルーシートを広げたりする中で、声を掛け合ったり、協力したり、分担したりするようになる様子が見られた。          また、不安からか集団で動いていた中学生が、徐々に1-2人で「できごと」に対応するようになり、互いの状況を伝え合いながら、それぞれの判断に基づいて行動する姿に、主体性の高まりを感じた。          ふりかえりでは、「車椅子の使い方を分かっているつもりだったのに、うまく開かなくて焦った」「助けに来てくれた時、本当に嬉しかった」「『放送とかが聞こえない』と伝えていたら、職員さんのアナウンスをその都度教えに来てくれて有難かった」など、たくさんの気づきと感謝が披露された。          「『次』はもっと動けるようになりたい」という意欲的な言葉も聞かれ、企画者としては、今後の活動につながる手応えを得ることができた。</p>	
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点          当初、リアリティを高めるため、地震によって「割れたガラス」や「壊れたドア」等の道具類を坊っちゃん劇場から借りる予定だったが、「汎用化を考えると、『特別なもの』を使わずに実施できた方が良い」と考えた。          そのため、「割れたガラスが飛散している」ことを示すシート等を敷設したりしたが、参加者にそれらの「設定」を共有しづらかった。</p> <p>■乗り越えた方法          「登場人物」の大人にお願いして、中学生との会話の中に「そこのガラスを踏まないように気を付けて」という声かけをしてもらった。</p>	

◎添付資料

- デバッキングのための資料
- 実施状況を記録した動画
- 愛媛新聞に掲載された記事

事業内容②多世代防災学習会		
事業内容②目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代が関わり合い、共に防災に取り組む機会を創出する(2回以上)</li> <li>・学校や地域のニーズや実態を反映した防災学習プログラムを開発する(2本以上)</li> </ul>	
事業内容②目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代防災学習にのべ50人以上が取り組む</li> <li>・参加者の防災に関する意識が高まる</li> <li>・中学生・高校生の活動が継続・発展する</li> </ul>	
事業内容②A 「スポーツ安全×防災」 (実施日:11/29)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>中学校のサッカー部と地域スポーツクラブの合同練習の会場で、「安全を守る方法」を考える講座を行った。練習試合の様子や総合運動公園の立地をドローンで撮影し、子どもたちと一緒に、危険な場面や対応策について話し合った。</p> <p>■成果</p> <p>子どもたちが映像によって自分たちの動きを客観的に知ることができ、危険なプレイを認識するとともに、グラウンド付近の人や物に対する安全を講じる必要性に気づくことができた。</p> <p>また、小高い丘の上にある運動公園や1本しかない道路は、地震や豪雨で大きな影響を受ける可能性があることが想像でき、これからの活動における安全管理について、指導者・選手で話し合う機会となった。</p>	
事業内容②B 「心のスキルアップ +防災教室」プログラムづくり (実施期間:10月～1月)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>愛媛県内で長く「こころの教育」に取り組んできた岡山理科大学の桐木玉美先生と共に、「災害が起きてからではなく、日頃から『心を整える方法』を実践する」ことを目指した学習プログラムを開発した。</p> <p>豪雨災害被災地や防災教育に関心の高い市町の教職員からのニーズを聞き取り、小学生・中学生だけではなく、保護者や教職員が共に学ぶことができる授業となった。</p> <p>■成果</p> <p>被災地での支援経験をもとに、「日頃の備えが大切」と訴える講師の言葉は、子どもたちにも強く印象付けられ、真剣にグループワークに取り組む姿が見られた。</p> <p>来年度の実施を希望する学校も多く、県内各地で展開していく見通しである。</p>	

<p>事業内容②C 「まちあるき防災」 (実施日:1/25)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 「まちのヒーロー育成計画～答えは15秒の中にある～」と題し、「地域を歩き、魅力を伝えるショート動画を作成するイベント」として中学生に募集を行った。 一番の目的は、地域で「顔の見える関係」を作ることである。地域住民と中学生が会話をする場面を生み出すため、中学生に「まちの昔の写真」を持たせ、同じ場所で写真を撮ってくるというミッションを課した。 また、地域活動に熱心な地域住民が営む商店と歴史ある神社にエイドステーションを設けて、参加者がゆっくりとコミュニケーションをとることができるよう工夫した。</p> <p>■成果 「まちの昔の写真」を持ち歩く効果は高く、中学生と地域住民の会話が大いに盛り上がっていた。また、エイドステーションでは、地元企業の寄付により、おやつや飲み物が用意され、笑顔で交流を深めていた。 さびれてしまった商店街のかつてのにぎわいや、神社の歴史などを知ることによって、参加者それぞれに「地域」への関心や愛着が高まった様子だった。 その後、中学生が「知り合った地域の人と挨拶を交わしている」と言い、「また一緒に何かやりたい」と希望してくれた。地域のあたたかなつながりが生まれていると感じる。</p>	
<p>事業内容②D 「多世代防災交流会」 (実施日:12/6)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 東温市立西谷小学校を会場として、地域の幼稚園児、小学生、中学生、高校生、保護者、地域住民を対象とした「防災交流会」を実施した。防災体験学習では、高校生が中心となって、子供や大人を対象とした防災体験学習を行った。全員での餅つきを行ったりして、楽しい時間を過ごした。</p> <p>■成果 災害時の被害軽減には、日頃の地域交流が大切であり、子供から大人までの多世代が様々な交流体験を行うことが災害時の初動対応防災に活かされると感じた。また、地域の行事や学校の行事などの様々なイベントにおいて、多世代の参加者も参加できるようにして防災の視点を加えた内容を加えることが「共助」の体制構築に有効であると感じた。</p>	 
<p>事業内容②E 「多世代防災学習会」 (実施日:1/26)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 西谷幼稚園を会場として、地域の幼稚園児、小学生、保護者、地域住民を対象とした「防災学習会」を実施した。防災士による体験学習講座では、紙芝居型防災カードゲーム「なまずの学校」を実施し、和気あいあいの雰囲気の中で、楽しく学習していた。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者) 防災グッズ、家庭転倒防止間違い探しクイズ、紙芝居型カードゲーム後、小学生から、防災に向き合う上で前向きな意見や感想が述べられた。子供から大人まで、参加者が家庭で防災について話し合うきっかけとなった。</p>	 

<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点          ②Cに参加を申し込んでくれた中学生が個人の携帯電話を持っていなかったり、公民館のWi-Fiが使えなかったりと、ICT関係で予想外の事態が実施日間に判明した。          また、「動画を作成したことがない」という生徒がいて、予定していた活動が難しくなった。</p> <p>■乗り越えた方法          機器類を貸し出してくれる事業者が手配してくれて、ポケットWi-Fiやタブレットを使うことができた。          また、一人一人に動画を作成してもらうのではなく、撮影した写真をオペレーターのクラウドに寄せてもらい、一つの動画にまとめ、事業の終わりに上映した。</p>
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>A～Eのどの事業においても、大人と子どもが「教える－教えられる」の関係にならないよう、一緒に楽しむ・一緒に学ぶ雰囲気を大事にした。          それにより、参加者それぞれの主体性が引き出され、それぞれが楽しみながら「防災」や「地域」を見つめることができた。</p>
<p>事業内容② 残課題等</p>	<p>多世代で学ぶ多様な防災プログラムを開発することができたが、今後展開していく際に、無報酬でできるもの(まちあるき)と、講師料や機器類借用料が必要なものがあるため、横展開をはかる場合に予算立てが必要となる。</p>

◎添付資料  
 実施状況の記録動画

事業内容③相互支援ネットワークづくり		
事業内容②目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の相互支援ネットワークの可能性をさぐる</li> <li>・被災地の知見をいかした共助のネットワークを構築する</li> </ul>	
事業内容②目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜備蓄栽培の実験圃場を東温市に1カ所以上開設する</li> <li>・相互支援ネットワーク参加者(加入圃場)を3カ所以上つくる</li> <li>・継続的な活動につなげる</li> </ul>	
事業内容③A 「野菜備蓄栽培実験圃場の開設」 (実施期間:10月～1月)	<p>■具体的な取り組み内容 野菜備蓄圃場として、次の3カ所開設した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 松本農園(東温市北方)</li> <li>② 東温高校(東温市志津川)</li> <li>③ 東温市立西谷小学校(東温市則之内)</li> <li>④ 介護施設「ウェルケア重信」(連携予定)</li> </ol> <p>■成果 耕作放棄地を活用して災害時に野菜が食べられる仕組みづくりを行っているNPO団体「BISAI-FARM」と松本農園が災害時連携協定を結び、松本農園の一部で「BISAI-FARM TOON」を開設した。</p> <p>さらに、事業②で関わった東温高校と西谷小学校が本事業に賛同し、学校農園に野菜備蓄圃場を開設することになった。新たに介護施設「ウェルケア重信」でも加えて、両校では、防災教育への意識が高まり、今後もコミュニティ防災の取組の強化を計画している。</p>	 
事業内容③B 「相互支援ネットワークの構築」 (実施期間:10月～1月)	<p>■具体的な取り組み内容 災害時に生鮮野菜等の食料が行き届かない事態に備えるため、災害時の相互支援ネットワークを構築した。ネットワークへの参加者は、次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① NPO 団体「BISAI-FARM」(宇和島市津島町)</li> <li>② 農家グループ「MIMAMEN FARMER'S」(宇和島市三間町)</li> <li>③ 株式会社「ノムランド」(西予市野村町)</li> <li>④ ブロッコリー農家「グリーンアップ」(愛南町)</li> </ol> <p>■成果 西日本豪雨での被災地や、今後南海トラフ大地震での大きな被害が想定されている地域などは、防災意識が高く、本事業への関心が高いことが分かった。事前防災の推進に極めて有効な取組になると考えられる。</p>	 
事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点 ③A、③Bともに、協力者との緊密な連絡調整が必要であった。</p> <p>■乗り越えた方法 LINE グループの設定やオンラインでの話し合いを緊密に行った。</p>	

<p>事業内容③を実施する上で工夫した点</p>	<p>事業の趣旨を丁寧に説明し、それぞれが対等な立場で協働していくことと、それぞれにとってメリットとなる活動になるよう意識して取り組んだ。</p>
<p>事業内容③ 残課題等</p>	<p>今後、事業を継続していくためには、活動資金の確保と組織的な取組とすることが課題である。</p>

◎添付資料

実施状況の記録動画



訓練で、車いすを用意してけが人の移動を手伝う生徒ら

## 災害対応 演劇手法で磨き

### 東温で中学生ら学習会

#### 相次ぐ問題・要望に即興で

演劇手法を通して災害時の対応を学ぶ体験型の学習会が25日、東温市南方の川内公民館であった。中学生5人と地域住民15人ほどが参加し、地震発生後に避難所となった公民館で、行政が到着するまでの対応を演じながら体験した。坊っちゃん劇場が監修し、即興で作品を構成するデバイジングという手法を参考に実施した。座って休める場所を用意してほしいとの要望には、防災倉庫からブルーシートを取り出してきて対応。車いすを用意してけが人の移動を補助するなど、生徒が自ら考えて事象に対処していった。

川内中学校3年竹内悠真さん(15)は「災害時の対応は、体力のある中高生にこそできることがあると感じた。今回の経験を生かし、考えて動くようにしたい」と話した。

学習会は、防災体験学習を真内で展開するコミスクえいめなどが主催した。

(森岡岳夢)

# コミュニティ防災教育 デバイジング手法を用いた実動訓練

2026.1.20 版

(実動訓練用 公民館 編 2025 プロトタイプ)

## 1. 目的と前提

- 実施場所：公民館
- 主導者：地域防災ボランティア（自治会・消防団・民生委員等）
- 目的：中学生が本体験を通じ「自分ごと」として捉え、有事の際の知識を得る。
- 手法：状況を提示し、その場の参加者の判断で展開が変わるデバイジング。適宜「問い」や「補足情報」を加え、参加者の発想・思考・行動を引き出す。ふりかえりを丁寧に行い、見つけた課題を共有することで学びを行動変容につなげる。
- 想定時間：60～90分（将来的に数パターン創る）
- 想定人数：10～30名（小グループ分割）
- 今回訓練の目標：自助・共助を体験しながら、緊急の避難所開設を行ってみる。
- 今後の展開：パターンを変えることで、ケースごとの体験を積み上げる

## 2. 全体構造（映像ファシリテーション型、デバイジング方式）

想定時間（90分程度、途中トイレ休憩なし）

①準備（20分） ②説明（10分） ③訓練の実施（25分） ④振り返り（35分）

※公民館の近隣住民に防災訓練することを知らせておく。また、消防署・警察署にも事前連絡を入れておく。

本年度は、プロトタイプ作成が目標！ 公民館で避難所の備品等確認を行ってみる。

公民館を活用して、仮設の緊急避難所準備の体験を目標。（仮設避難所を引き継ぐ前提）

## ㊤アイスブレイク

参加者の不安を軽減する為、事前に現場の安全確認や人間関係等を含む確認タイム。

## ㊦プロジェクターよりスクリーンに映像を流す。

1. ここで全体の訓練についての説明と目標設定を確認する。パニックを起こさないように配慮する。訓練協力者の顔見せ

### 進行役（ファシリテーター）

- これは“観る芝居”ではありません。皆さん自身が参加する登場人物です
  - ルール説明：正解はない／安全配慮／発言しなくても OK
  - 状況カードの開示と、説明。（必要に応じて、ビブスや腕章など）
2. 危険事項の確認やエマージェンシー時のエスケープ方法を確認。本施設の簡単な説明と必要であれば資料配布

## ㊧スクリーン映像より、緊急放送を行う。（実動訓練開始）

- ワークショップ中に地震が起きた想定で、それぞれ置かれている状況で行動開始
- スタートしたら、**まず自分自身がどういう行動を取るかの確認**  
**（留まるかどうか？家族との連絡をどうするか？）**
- 次に、それぞれ困りごとの地域住民が来るという設定（同時多発になるだろう）  
（ここもデバイジングで、人数やけがの有無、妊婦さんなど状況をカードで選ぶ）
  - ・車いすの老夫婦
  - ・怪我をして、救急車が来ない
  - ・不安で家にいたくない家族
  - ・水が出ないので、トイレを借りに来た（水を貰いに来た）
  - ・消防団の人が、人手が欲しいから来てくれと言いに来た。
  - ・食事が心配でいつから配られるのか確認に来た。
- 施設担当者がやってきて、状況説明を行う。（引継ぎ作業）

## ㊨訓練の終了の合図と、振り返り（必要に応じて、給水やトイレ休憩）

- 全体集合→落ち着きを取り戻して、先ずは労い。（雰囲気大切）
- 参加者の感想など
- 出来たこと、出来なかったこと、危なかったこと、こうなったらよかったものの、混乱したことなどの洗い出し
- 全体総括と今後の取り組み

### 3. 進行役の心得（台本外メモ）

- 答えを出さないでよい。（今回の経験が、有事の際に生きる）
- 参加者の判断を評価しない。
- 厳しくし過ぎない。（真剣さは時に攻撃的になってしまう恐れがある。）

### 4. 今後の発展（可能項目）

- 災害種別（地震／水害／土砂）
- 地域の関りパターン
- 年齢層別バージョン
- 学校避難訓練バージョン

### 5. 小道具などの必要なモノ

- ◆状況カード      ◆現場カード（ガラスが散乱して危険、天井が落ちている等）
- ◆選択カード（HELPの際）      ◆訓練中、用紙      ◆使用して良い救急セット

### 6. 今回のスケジュール（2026年1月25日（日）に向けて）

- ・小道具の作成
- ・運営の確認とリハ  
（打ち合わせ 1/16・リハーサル）
- ・訓練内、映像作成（2025.1.23の予定）

※この台本は「完成形」ではなく、学校や地域ごとに更新され続けることを前提とする。

---

## 7. 公民館版・叩き台本（中学生向け）

### 授業設計

- 1コマ約90分 適宜それぞれトイレを済ませる
- 最終到達目標：中学生による「判断と初動」を確認し、より良いものを共有する。

### 登場する立場（役ではない）

- 進行役（ファシリテーター）：問いを投げる人
- 地域ボランティア：現実情報・想定外を持ち込む人
- 生徒たち：そのままの自分で訓練に参加

※固定配役はしない。役名も不要。

### ㊦アイスブレイク：担当・中村（約20分）

進行チームの挨拶と自己紹介

参加者のニックネーム確認と安全確認

ちょっとしたゲームを基に、自己開示の準備

---

### ㊧プロローグ（約10分）：担当・中村

進行（ファシリテーター）

「みなさん、こんにちは」

これから防災訓練をします。でも今日は、最初から答えを用意していません」

「われわれも、地域の人も、あとで一緒に考えますが、まずは若い力の皆さんに悩んでもらおうという訓練内容です。」

「間違えるということも含めての訓練です。自分事として考え、発言と行動をして欲しいと思います。固くなり過ぎず、ただしふざけずに安全第一をお願いします。まずは自分の命を大事に考えてください。」

それでは、今回の災害の規模と川内公民館の設定をお伝えいたします。

震源は伊予灘沖、マグニチュード7を超える大地震が西日本を襲います。

水道管を含むライフラインは、老朽化もありいたる所で決壊。川内公民館でも電気と水道がとまるという状況になります。

公民館自体は耐震工事の甲斐があって、無事という状態ですが、入り口の正面玄関付近のガラスは割れて散乱しているので危険ですので近づかないでください。

なお敷地内は移動可能で、外への移動は指定の扉のみにいたします。そして、安全確保の為に、外に出る際は大人が付き添います。

また、訓練中に体調が悪くなったり、帰宅を選ばれたりする場合もあるかもしれません。その場合はエスケープゾーンを作っておりますので、そちらで訓練終了まで待機していただくことになります。

むやみにエスケープして欲しくないのですが、このポーズをされたら誘導します。

(※ポーズの共有、シャークサイン)

皆さんも一回やってみましょう。→ やってみる。

水分補給は可能とします。

のどが乾いたら飲みに行ってください。

状況カードというものを今回作成しました。

これです（例が掛かれたカードの提示と説明）

何か質問はありますか？

→ あれば対応。

それでは、訓練を開始します。

→ 映像開始を促し、部屋は少し暗くなります。

## ② 実動訓練 1 部 プロローグ

### 映像

地震博士：みなさん！どうも、地震博士じゃ。

今日は集まってくれてありがとう！

防災について調べたいというみんなの熱い想い！うれしいぞ～！

さあ、今日は実際に地震が起きた時のを想定しての訓練じゃ！

ちなみに、みんながいる川内公民館はこんな感じじゃの。（見取り図を出して）

簡単な見取り図じゃが、見えておるかの？（簡単な防災倉庫の説明など）

（地震が起きた時の初動について、防災士の観点から簡単に）

まずは、身の安全確保 → 家族と集合場所を決めているかなどの確認

さあ、続いては、実際に公民館を早速調べよ・・・

SE: 緊急地震速報が流れる

博士：今、伊予灘沖 10KM 地点でマグニチュード 7 を超える地震が発生したようじゃ。

川内でも揺れているはずじゃが、みんな涼しい顔をしとるの

そっちは大丈夫か？

間

いかん、地震が強すぎて、電気、水道などのライフラインが断たれたようじゃ。

そこにいる大人たち、は

間もなく、この映像も切れるだろう。

みんな、落ち着き協力して対応してくれ、それでは復旧ま・・・で

→映像途切れて、ホール内の電気が落ち真っ暗になる。

### ③：実動訓練トラブル対応（約25分）

#### 会館職員：山内さん

会館職員 （ホール入り口の扉より急いで入ってきて） みんな、大丈夫！？

怪我した人はいないかな？（簡単に確認）

入り口付近はガラスが割れて危ないので、（扉の指示）だけ使用してください。

Q1：家に帰らないといけない人は居ますか？

→ 初動確認

Q2：家の人と連絡とりたい人は居ますか？

→ 電話番号の確認 （山内さんの携帯で対応しようとするが繋がらない前提。）

#### けが人の対応

近所の方A （外側の扉より、走りこんできて）

すみません！

落ちてきた瓦で、頭を切った方がいて、ブロック塀に足を挟まれた人がいるんですが110番に連絡しても繋がらなくて！（救助者の情報を簡単に）

だれか、助けてください。

会館職員

なるほど、申し訳ないのですが私は会館の安全確認を先ずさせてください。

助けに行くのを、みんなにお願い出来ますか？

まだ余震もあるかもしれないけれど、何があるか分からない。ここは、みんなに任せるので対応をお願いしたいです。

Q：救助には何人いく？（人選も）→どこに連れてくる？→その時、必要なものは？

→ 鍵など必要なものがあれば、一緒に事務室横に取りに来てください。→ 移動救急セット、鍵を渡して、必要物資を取りに行つて貰う。

近所の方A

早く来てもらっていいですか？（けが人情報）

Q：何を持っていくますか？ 準備は物は？

※（晴れ：実際に駐車場入り口に。雨：玄関に来ている。）一緒に移動する。

※参加者がまだ居て、残っている場合

**地域の人 B (男女)** (ロビーより) すみません！

トイレの水が出なくて、流せないのだけどどうしたらいいですかね？

残っている人で対応を促す。

※これ以降はみんなのチョイスや現状の状態などで変わってくる※

適宜、それぞれ上記のモノに対応してホールに戻ってくる。

椅子、机、防災倉庫から持ってきた物資で現状の対応できることにチャレンジ。

けが人は痛がったり、立てなかったり、ぐったりしている。

それぞれ、の対応の様子を見て、

④訓練の終了の合図と、振り返り (約35分)

**ホール内の電気が復活し、映像の復活の音 (緊迫感のないモノ)** (映像2)

地震博士：おお！

電源が戻ってきたようじゃ！ みんな無事か？

そっちの状況はどうかの？ちょっと怖いところがあったりしたかな？

あれ？

みんなの声が聞こえんな。機械の故障かもしれん。

では、これからはワシとの情報共有が出来んから、地域の大人たちと状況の把握や何に困ったのかなど共有する時間にするぞ。

おっと、その前にちょっと休憩が必要かな？

それではすまんが、地域の大人たちよろしく頼むぞ～！

進行：はい、お疲れ様です。実動訓練は以上とします。

(集合に關しての情報を共有する。必要に応じて、給水やトイレ休憩)

## 集合時間になって

ワークシート・アンケートなど、実際に訓練してみでの共有や感想確認

※この辺りは、酒井さんと平岡さんに助けて貰えるとより良いかと※

みんなはどんなことを感じた？どんな事があったのかな？

聞いてみてもいい？（否定なく受け止める。）

出来たこと、出来なかったこと、危なかったこと、こうなったらよかったのに、混乱したことなどの洗い出し（必要に応じて、ホワイトボードに書き出し）

- 全体総括と今後の取り組み（「続き」として設計できる）

（例：次回はトイレ運営、受付、物資配布、炊き出し、避難所でのオーバーナイト体験）

今後、課題として

- まず家族・知人に連絡をどう取るのか？
- 避難所に残る？ 帰る？の選択など
- 誰を、何を優先する？の明確化
- 今日出た行動を「現実の地域防災計画」の事案に情報蓄積する。

➡「気づいたこと（連絡手段・避難方針）を、家族と話し合っ欲しい」

経過	時刻	できごと	人物
		博士の映像	中村さんがPC操作
		地震により電灯が消える	酒井が後方で操作
		公民館職員がかけつける	山内さんが安否確認の声がけ
		帰ろうとする？ 公民館に残る？ 家族との連絡は？	
		山内さんが大ホールを出る	「館内の被害状況を確認してくるね！」
		①図書館利用者からのSOS	小椋さん 「誰かいませんかー？本が落ちてきて、立 ない人がいるんです」 高橋さん (図書館の入口付近で座り込んでいる)
		救助に行く？ 何人で行く？ どこに連れてくる？ ケガに対応する？ 何を探す？ 車椅子を使う？ 薬箱を探す？	
		山内さんが戻り、説明する	「館内もあちこちで物が割れていて、ここが一 番安全な感じ。段々と近所の人が避難してくる はずなので、この部屋に誘導してください。」
		誰かが出入口に立つ？ 表示を作る？	
		②通行人が避難してくる	亀井さん 「バスから降ろされたんですが、ここで一緒に 避難させてもらえますか？」 「耳が聞こえにくいので、放送等の情報があれ ば教えて欲しいです」
		山内さんが戻り、説明する	「館内あちこちで物が割れたりしています。ト イレは管が破裂している可能性もあるので、使 わないようにしましょう。」
		亀井さんに誰かが伝える？ 表示を作る？	
		③スポ少指導者からのSOS	土井さん 「駐車場にいる幼稚園生・小学生の親子 10 人 ほどを連れてきます！パニックを起こしてる 子もいて、外は危なくて」 黒澤さん 「暗くなると身動き取れなくなるから、公民館 は防災倉庫に懐中電灯とか、ありますよね」
		防災倉庫に物品を取りに行く？	

		④消防団員登場	八木さん 「みんな、大丈夫？消防団員もこっちに向かっ てるから、安心して。」
		終了	中村さんが終了を伝える
		博士の映像	中村さんがPCを操作
		ふりかえり	感想を述べあう *5つの「できごと」をふりかえる *気づいたことを共有する *「今日できること」を確認する

①～④は順番未定

参加者募集!

中学生には参加賞あり!



# まちのヒーロー育成計画 ～答えは15秒の中にある～

スマホを片手にまち歩き♪  
キミが見つけた地域の宝物を  
ショート動画で表現しよう

## 1月25日(日)

12時30分受付開始

13時開始～17時終了

東温市川内公民館大ホール集合

タブレットの貸し出しもできますので、必要な方は、  
お申し込みの際にお知らせください

申込〆切

~~1月19日(月)~~

→23日(金)に延長!

主催 一般社団法人コミスクえひめ 未来をつくる協働本部チームいのとん  
共催 東温市教育委員会 (内閣府コミュニティ防災教育推進事業)

→ 問合先 090-6289-4505 (酒井)

# まちあるき情報



13時開始

まちあるき (90分)

防災ワークショップ (90分)